令和３年度　第２回秋田県埋蔵文化財センター運営協議会
【概要・要旨】

令和３年度　秋田県埋蔵文化財センター運営協議会概要

名　　称	秋田県埋蔵文化財センター運営協議会
設置根拠	秋田県埋蔵文化財センター運営協議会規定
設置目的	秋田埋蔵文化財センターの適正な運営と円滑な事業の推進を図るため
委員構成	委員長１名　副委員長１名　委員８名　計１０名（うち女性委員２名） ※　定数１０名以内
委員任期	２年間：令和３年４月１日から令和５年３月３１日まで
第　２　回	書面開催（令和４年２月７日資料発送、３月７日提言・意見集約送付）

令和３年度　第２回秋田県埋蔵文化財センター運営協議会　要旨

１　日　時：書面開催（令和４年２月７日資料発送、３月７日提言・意見集約送付）

２　委　員：

秋田考古学協会	元会長	小　松　正　夫　様（委員長）
横手市立雄物川小学校	校長	瀬田川　　仁　様（副委員長）
美郷町立千畑小学校	校長	金　子　徹　章　様
仙北市立西明寺小学校	校長	栗　林　靖　雄　様
南教育事務所仙北出張所	所長	栗谷川　　学　様
柵の案内人　大仙市ほたるの会	会員	佐々木　淳　一　様
大仙市立高梨小学校	校長	照　井　政　裕　様
仙北地域振興局総務企画部地域企画課	課長	堀　川　克　利　様
山崎ダイカスト株式会社	取締役管理部長	山　﨑　裕　子　様
国立大学法人秋田大学	名誉教授	渡　部　育　子　様

３　事務局：

磯村　　亨　所長（兼 払田柵跡調査事務所長）
藤原　　健　副所長
川本健太郎　副主幹（兼）総務班長
村上　義直　副主幹（兼）調査班長
袴田　道郎　主任文化財専門員（兼）中央調査班長
吉川耕太郎　副主幹（兼）資料管理活用班長
谷地　　薫　（兼）文化財主査（本務 払田柵跡調査事務所調査班長）
堀川　昌英　学芸主事

４　配付資料（目次）：

令和３年度　第２回運営協議会資料
①　令和３年度　事業報告（調査関係）　※払田柵跡調査事務所事業含む
②　令和３年度　事業報告（活用・普及関係）
③　令和３年度　その他事業報告（創設40周年事業等）
④　令和４年度　事業計画　※払田柵跡調査事務所事業含む
⑤　その他

５　御意見・御提言（抜粋）:

- 地道な調査活動により、新しい事実やこれまで推定していたことが裏付けられるなど貴重な成果が得られていることを知った。秋田に住んでいながら、遺跡について触れる機会が少なかっただけに、発掘調査によって分かってきたことは、より新鮮に感じる。同じことは、子どもたちにも言えると思われる。もし、学校から近い場所に発掘現場があり、その様子を見学したり実際に発掘作業を体験したりすることができれば、地域から学ぶ優れた体験活動になると感じた。このように発掘調査は、秋田に住んでいる私たちに貴重な示唆を与えてくれている。地域住民や子どもたちのためという視点も持ち､今後も調査活動を続けてもらいたい。
- 今年度もコロナ禍の状況にありながら、活用普及関係事業の多くが実施され、多くの参加者を得ていたことに驚いた。特に出張展示「あきた埋文の最前線」への3520人の参加は特筆すべきかと思う。
- 活用普及事業報告を見て、改めてコロナ禍の影響が大きかったことを実感した。特に、中止の多かった「体験教室」は、事業の性質上参加者との三密や接触の機会が避けられない部分もあり､担当者の精神的な負担も多かったものと推察する。ただ､体験行動は､児童を始め参加者にとって理解や興味を誘う学習過程だけに、今後もできる限りの範囲で「体験教室」の機会の維持と充実を図って頂きたい。
- コロナ禍の中での活用普及事業、40周年記念事業には様々な苦労があったと推測される。一律に、中止・閉館・オンラインのみの開催にするのではなく、可能な限り「見て、話して、触れて」文化を味わう場を提供したことは大きな成果であり、そのノウハウ、工夫は後世に語り継がれるべきであると考える。簡単な記録でも残すことで、例えば創設50周年記念事業には活かされると思う。コロナ禍での文化事業活動についてはライブへの影響などのほかは､あまり報道されないが､継続のための工夫を可視化することで文化財に対する認識にも新たな発見があるのではないだろうか。
- 動画での情報発信について。市教育委員会制作の動画にも、埋蔵文化財センターの職員が登場している。埋蔵文化財センター主催の講演会の様子等、もっと紹介できないものか。平易な内容であれば、授業での活用も考えられる。
- （払田柵跡調査事務所の）調査50周年記念事業の主体は払田柵跡調査事務所であるが、埋蔵文化財センターと共催の形をとる必要があると思われる。

６　センターより（抜粋）:

- 今年度第２回も書面開催となったが、貴重な御感想、御意見、御提言をお寄せくださり、心より感謝申し上げる。お寄せいただいた御意見・御提言を充分に検討して参りたい。
- 御指摘のあったセミナー・講座等の動画配信や運営協議会も含めた会議等のオンライン開催等については、遅ればせながら環境を整えつつあるところである。一方、バーチャルでは味わえないものの大切さも忘れないようにして、状況と効果等を勘案しながらより適切な方法を引き続き模索して参りたい。
- 令和４年度も多くの緊急発掘調査並びに確認調査が予定されている。遺物整理作業、遺物管理業務にも注力した上で、活用普及事業も工夫しながら進めて参りたい。今後とも御理解と御支援の程、よろしくお願い申し上げる。